

≪ V 道徳科の指導について ≫

＜学習指導案＞

Q5 学習指導案はどのように作成するとよいのでしょうか。



道徳科における学習指導案とは、授業者が、ねらいを達成するために、道徳科の特質を生かして、何を、どのような順序・方法で指導し、評価し、さらに主題に関する本時以外の指導にどのように生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したものです。学習指導案の作成の手順は、状況に応じて異なりますが、おおむね次のようなことが考えられます。

【指導案作成の手順】

① ねらい・教材を検討する

年間指導計画に基づきながら、主題のねらいを内容項目と教材をもとに検討し、教材の内容が主題のねらい達成のために適切かどうか確かめ、指導の内容や教師の指導の意図を明らかにします。

② 主題設定の理由を明確にする

ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、どのような指導をすることによって児童がねらいにせまれるか、指導の要点を明確にします。

③ 教材を分析する

教材について、授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかについて検討します。例えば、人物が登場する読み物教材の場合、その中の登場人物の行為や心の動きを分析し、教材に対する児童の感じ方や考え方を予想します。どのように学習を進めていけば児童の学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて検討します。

④ 学習指導の展開を考える

ねらい、児童の実態、教材の内容などをもとに、授業の展開（流れ）について考えます。児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想します。

このような手順を基本としながらも、児童の実態や、指導の内容・意図などに応じて工夫していくことが求められます。特に、

重点的な指導 体験活動を生かす指導 複数時間にわたる指導
多様な教材の活用 校長・教頭などほかの教師との協力的な指導
保護者や地域の人々の参加や協力

などの工夫が求められるので、多様な学習指導案を工夫して作っていくことが大切です。



【学習指導案の形式例】

指導案は教師の指導の意図や構想が適切に表現されることが大切です。各教師の創意工夫が期待されるため、形式に特に決まった基準はありません。一般的に用いられている形式に基づいて解説します。

(例) 第〇学年〇組 道徳科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1. 日 時 平成〇〇年 〇〇月〇〇日(〇) 〇校時

2. 主題名 **年間指導計画における主題名と内容項目を書きます。**

3. 教材名 **出典も必ず明記します。**

4. ねらい **学年の指導内容をもとにして、教材と関連させながら書きます。指導のねらいとする道徳的価値を具体的にまとめていくようにします。**

5. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

ねらいや指導内容について教師の捉え方を簡潔に書きます。

(2) 児童の実態について

ねらいとする価値に関連する児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願いはどうであるかを具体的に書きます。児童の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点から捉えるよう心掛けます。

(3) 教材について

使用する教材の内容や特質を短くまとめ、その教材を取り上げた意図などについて書きます。

※ 研究授業など授業公開する指導案では、ここに「授業の工夫」が入る場合もあります。

事前にその教材について分析し、教材にある道徳的価値を十分把握しておくことで、発問や展開などを考えるときの基礎となる部分が明確になってきます。

6. 「 」教材分析

話のすじ

心の動き

気付かせたいこと

話のすじを追っていきます。国語のような段落わけではありません。その場の条件や背景、登場人物の行為など、ねらいとする指導内容を確認していきます。

話のすじに対応して、登場人物の心の動きを考えてみます。ねらいとする指導内容を達成するため、教材に登場する人物に焦点を当てて授業を組み立てていきます。

話のすじと心の動きに対応して、児童に気付かせたいことを書き出してみます。ねらいとする部分や考えの広まる場面などを確認しながら、発問や考えさせたいことを明確にします。



授業の展開（流れ）では、ねらいに含まれる道徳的価値について、児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができるようにするための、教師の指導と児童の学習の手順を書きます。一般的には、学習指導過程を導入・展開・終末の各段階に区分し、児童の学習活動、主な発問と予想される児童の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価の観点などを指導の流れに即して記述することが多いです。

児童の学習活動の流れと、ねらいを追求できる効果的な発問を中心に記述していきます。教材分析したときに児童に気付かせたいと考えたところを引き出すように発問の仕方を考えるようにします。

教材の提示の仕方、発問の意図、話し合いの仕方、書く活動、動作化・役割演技などの表現活動、板書の仕方、説話の留意事項など指導方法の工夫についてできるだけ詳しく書いていきます。

7. 展開

学習活動 (○基本発問 ◎中心発問 ・期待する児童の反応)	・支援と留意点
<p>1. 導入 ○導入の発問</p> <p>導入は、主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解をもとに自己を見つめる動機付けをしたり、ねらいとする価値への方向づけをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主題に関わる問題意識をもたせる導入：「こんなとき、どうしますか？」 ○経験を想起し発表する導入：「○○をして、～な気持ちになったことは？」 ○教材の内容に興味や関心を持たせる導入：「○○という動物を知っていますか？」 <p>などが考えられます。</p>	<p>・</p>
<p>2. 教材「 」を読んで、話し合う（展開前段） ○基本発問</p> <p>◎中心発問</p> <p>3. 自分の生活を振り返る。 （展開後段） ○展開後段の発問</p> <p>4. 終末 ○終末の活動</p>	<p>展開は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、教材によって児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解をもとに自己を見つめます。児童の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていきます。</p> <p>教材による価値追及をする前段、自分とのかかわりで価値をとらえる後段に分けられることが多いです。ここでは「2」が展開前段、「3」が展開後段となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値に対する児童一人一人の感じ方考え方を生かす ○物事を多面的・多角的に考えられるようにする ○児童が自分との関わりで道徳的価値を理解できるようにする ○児童が自己を見つめる <p>などのことに留意して考え作成してください。</p>
<p>他の教科ではここでまとめをすることが多いですが、道徳科では終末といいます。価値の押し付けにならないよう、終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考え、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、実践意欲への向上を図ります。学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたいする学習活動が考えられます。</p>	

※ 他に「板書計画」を記述することで授業者の指導の意図がさらに明確になります。